

個別施策

- H2-1 協働できる環境を整えます
- H2-2 市民との良好なコミュニケーションを形成します
- H2-3 市政への関心を高め、市民の声を市政に反映します

ア 施策の目的

多様な主体同士が、お互いの強みを活かした役割分担のもと、いつでも協働の手法を使って、地域課題に取り組んでいる

イ 基本施策の評価

A b 目標を達成しており、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3
協働の事例 件数	433件 (26年 度)	↑ 目標値	420	440	460	480	500	500
		↓ 実績値	466	483	484	533	528	607
		↓ 達成率	111.0%	109.8%	105.2%	111.0%	105.6%	121.4%

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。

オ 審議会における政策評価に関する意見

(1) 成果指標として、「市民から寄せられた意見・提案など」の増加はとても良いことだと思うが、今後はそのフォローをどうするかについても検討してほしい。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- (1) 「長崎市よかまちづくり基本条例」が地域におけるまちづくりの基本になっていると思うが、「長崎市よかまちづくり基本条例」のPRが不足していると思うので、市民にもっとPRすべき。
- (2) 市からの広報については、様々なチャンネルがあるが、広報紙の見直しをした後に市民に有効に活用されているのか、もっと有効な記載内容がないか検討していただきたい。
- (3) 他都市の優良事例を参考にして、ホームページのリニューアルをぜひお願いしたい。

- (4) 広報ながさきがリニューアルされて非常に見やすくなった。縦文字から横文字主体となり、高齢者にとっては縦文字がいいが、若い人が読みやすくなったと思う。また、コールセンターは長崎市の顔であるが、非常に好評で努力していると思うので、今後も力を入れて頑張っていたきたい。
- (5) コールセンターは、ワンストップ対応で市民の生活に根付いているので、より一層の進展をお願いしたい。
- (6) コールセンター機能は、災害時等には一斉に集中するため、機能不全となるが、災害時の緊急連絡や避難所情報などは別に分けるようなことができないか。
- (7) 「市民の声を聴く仕組み」ということで、市長や部長が地域の声を聴いてくれているが、その結果が地域にフィードバックされているかは疑問である。それが「約6割の市民が、市民の声が市政に反映されているかわからない」という結果につながっていると思うので、地域へのフィードバックについて、しっかり取り組んでもらいたい。